

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第1回

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	ファイナンス・リース取引（決算処理①）	高・中・低	6－3	✓✓✓✓✓	
2	売上取引（売上原価対立法）	高・中・低	1－7	✓✓✓✓✓	
3	手形の更改（利息の処理①）	高・中・低	2－10	✓✓✓✓✓	
4	源泉所得税	高・中・低	7－2	✓✓✓✓✓	
5	本支店会計（支店分散計算制度）	高・中・低	9－1	✓✓✓✓✓	

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第2回

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	固定資産の改良と修繕	高・中・低	5－10	✓✓✓✓✓	
2	有価証券の売却（売買目的有価証券）	高・中・低	4－4	✓✓✓✓✓	
3	仕入取引（消費税）	高・中・低	1－2	✓✓✓✓✓	
4	固定資産の減価償却（月割償却①）	高・中・低	5－18	✓✓✓✓✓	
5	企業買収	高・中・低	10－2	✓✓✓✓✓	

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第3回

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	オペレーティング・リース取引（支払時の処理）	高・中・低	6－5	✓✓✓✓✓	
2	固定資産の減価償却（生産高比例法）	高・中・低	5－16	✓✓✓✓✓	
3	売上取引（消費税）	高・中・低	1－9	✓✓✓✓✓	
4	税効果会計（その他有価証券）	高・中・低	7－8	✓✓✓✓✓	
5	本支店会計（損益の振り替え）	高・中・低	9－3	✓✓✓✓✓	

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第4回

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	無形固定資産（ソフトウェアの購入）	高・中・低	5－20	✓✓✓✓✓	
2	売上取引（クレジット売掛金）	高・中・低	1－8	✓✓✓✓✓	
3	固定資産の除却	高・中・低	5－11	✓✓✓✓✓	
4	利益処分（4分の1規定）	高・中・低	8－6	✓✓✓✓✓	
5	法定福利費	高・中・低	7－1	✓✓✓✓✓	

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第5回

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	固定資産の取得（割賦購入）	高・中・低	5－2	✓✓✓✓✓	
2	外貨建取引（取引発生前に為替予約）	高・中・低	3－1	✓✓✓✓✓	
3	有価証券の売却（売買手数料）	高・中・低	4－6	✓✓✓✓✓	
4	企業合併	高・中・低	10－1	✓✓✓✓✓	
5	固定資産の滅失（保険金の受け取り）	高・中・低	5－15	✓✓✓✓✓	

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第6回

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	不渡手形（支払請求）	高・中・低	2－8	✓✓✓✓✓	
2	商品保証引当金	高・中・低	1－11	✓✓✓✓✓	
3	固定資産の買換え	高・中・低	5－9	✓✓✓✓✓	
4	利益処分（10分の1規定）	高・中・低	8－5	✓✓✓✓✓	
5	税効果会計（損金不算入）	高・中・低	7－6	✓✓✓✓✓	

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第7回

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	ファイナンス・リース取引（契約時の処理①）	高・中・低	6－1	✓✓✓✓✓	
2	外貨建取引（取引発生後に為替予約）	高・中・低	3－3	✓✓✓✓✓	
3	新株発行（設立時）	高・中・低	8－1	✓✓✓✓✓	
4	役務収益・役務原価（収益・費用の計上①）	高・中・低	2－2	✓✓✓✓✓	
5	固定資産の売却（間接法）	高・中・低	5－7	✓✓✓✓✓	

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第8回

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	固定資産の減失（未決算の計上①）	高・中・低	5－13	✓✓✓✓✓	
2	有価証券の購入（満期保有目的債券）	高・中・低	4－1	✓✓✓✓✓	
3	固定資産の取得（圧縮記帳）	高・中・低	5－4	✓✓✓✓✓	
4	株式申込証拠金（払込期日の処理）	高・中・低	8－4	✓✓✓✓✓	
5	外貨建取引（取引発生時に為替予約）	高・中・低	3－2	✓✓✓✓✓	

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第9回

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	仕入取引（売上原価対立法）	高・中・低	1－1	✓✓✓✓✓	
2	固定資産の取得（建設仮勘定）	高・中・低	5－1	✓✓✓✓✓	
3	課税所得の計算（損益不算入）	高・中・低	7－4	✓✓✓✓✓	
4	利益処分（利益剰余金と資本剰余金）	高・中・低	8－8	✓✓✓✓✓	
5	役務収益・役務原価（収益の計上）	高・中・低	2－1	✓✓✓✓✓	

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第10回

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	材料の購入	高・中・低	11－1	✓✓✓✓✓	
2	労務費の計算	高・中・低	11－5	✓✓✓✓✓	
3	外注加工賃の計上	高・中・低	11－8	✓✓✓✓✓	
4	製造間接費の予定配賦	高・中・低	11－9	✓✓✓✓✓	
5	材料の購入（本社工場会計）	高・中・低	11－2	✓✓✓✓✓	

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第1回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 当期首（4月1日）において、下記の条件でリース会社と備品のリース契約を締結した。このリース取引はファイナンス・リース取引に該当するため、利子抜き法により処理することにした（※適切に処理済み）。

リース期間：5年

リース料：年額 ￥100,000（毎年3月末日払い）

リース資産：見積現金購入価額 ￥450,000

決算日：3月31日（会計期間は1年）

当期末（3月31日）において、1回目のリース料を現金で支払うとともに、決算にあたり、備品（耐用年数：リース期間、残存価額：ゼロ、償却方法：定額法、記帳方法：間接法）の減価償却を行った。なお、リース料に含まれている利息は定額法の計算により費用として処理すること。

ア. 現金 イ. リース資産 ウ. 減価償却累計額 エ. 前払利息 オ. リース債務
カ. 減価償却費 キ. 支払リース料 ク. 支払利息

2. 宮部商店に商品 ￥400,000（原価率：75%）を販売し、代金は掛けとした。なお、発送費 ￥5,000（当社負担）は現金で支払った。商品売買については、商品を仕入れたときに商品勘定に記入し、販売したときにそのつど売上原価を売上原価勘定に振り替える方法で記帳している。

ア. 現金 イ. 売掛金 ウ. 立替金 エ. 商品 オ. 売上 カ. 仕入 キ. 売上原価
ク. 発送費

3. 以前に受け取っていた、得意先百田商店振り出しの約束手形 ￥300,000 について、百田商店より手形の更改の申し出があったため承し、旧手形と交換という形で新手形を受け取った。なお、支払期日の延長にともなう利息 ￥3,000 は送金小切手で受け取った。

ア. 現金 イ. 当座預金 ウ. 受取手形 エ. 営業外受取手形 オ. 支払手形
カ. 営業外支払手形 キ. 受取利息 ク. 支払利息

4. 定期預金（預入金額：￥1,000,000、預入期間：6か月、年利率：0.5%）を銀行に預け入れていたが、本日、この定期預金が満期になったため、源泉所得税（20%）控除後の受取利息とともに普通預金に預け替えた。

ア. 当座預金 イ. 普通預金 ウ. 定期預金 エ. 仮払法人税等 オ. 未収利息
カ. 未払法人税等 キ. 受取利息 ク. 租税公課

5. 遠藤ロドリゴ株式会社の長崎支店は、東京支店から「商品券 ￥50,000 および収入印紙 ￥10,000 を送付した」との報告を受けたので適切に処理した。なお、同社は支店分散計算制度を採用している。

ア. 未収入金 イ. 受取商品券 ウ. 未払金 エ. 通信費 オ. 租税公課 カ. 本店
キ. 長崎支店 ク. 東京支店

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第2回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 建物の修繕工事を行い、代金 ￥ 2,000,000 を普通預金から支払ったが、工事代金の30%は建物の耐震機能を向上させる効果があるものと認められた。なお、修繕引当金の残高は ￥ 1,200,000 である。

ア. 当座預金 イ. 普通預金 ウ. 建物 エ. 建物減価償却累計額 オ. 建設仮勘定
カ. 修繕引当金 キ. 減価償却費 ク. 修繕費

2. ×1年12月10日に、売買目的で保有している辻村ミステリー株式会社の社債（額面総額：￥ 1,000,000、帳簿価額：￥ 980,000、年利率：7.3%、利払日：9月末日と3月末日の年2回）を売却し、端数利息を含めた金額 ￥ 985,000 が普通預金口座に振り込まれた。なお、端数利息は1年を365日として、前回の利払日の翌日から売却前日までの期間に相当する金額を日割りで計算すること。

ア. 当座預金 イ. 普通預金 ウ. 売買目的有価証券 エ. 満期保有目的債券 オ. 有価証券利息
カ. 有価証券売却益 キ. 支払利息 ク. 有価証券売却損

3. 商品 ￥ 400,000 と研究開発のために使用する機械装置 ￥ 600,000 を月末払いの条件で購入した。これらに対する消費税の税率は10%であり、取引は税抜方式により記帳する。

ア. 仮払消費税 イ. 機械装置 ウ. 買掛金 エ. 未払金 オ. 仮受消費税 カ. 仕入
キ. 租税公課 ク. 研究開発費

4. 備品の減価償却費は概算額（1か月あたり ￥ 3,900）をもって、4月から2月までの11か月間にわたって毎月見積り計上しているため、決算において年間確定額との差額を調整する。なお、決算整理前残高試算表の備品減価償却累計額の金額は ￥ 122,900 である。

取得原価：￥ 200,000

残存価額：ゼロ

耐用年数：5年

償却方法：200%定率法

記帳方法：間接法

決算日：3月31日（会計期間は1年）

ア. 仮払金 イ. 備品 ウ. 備品減価償却累計額 エ. 未払金 オ. 固定資産売却益
カ. 減価償却費 キ. 固定資産売却損

5. 当期首において、桜庭商会を現金 ￥ 1,200,000 で買収した。買収時の桜庭商会の資産および負債は、売掛金 ￥ 900,000、商品 ￥ 800,000、借入金 ￥ 400,000 であった。

ア. 現金 イ. 売掛金 ウ. 商品 エ. のれん オ. 長期借入金 カ. 資本金
キ. 負ののれん発生益 ク. 損益

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第3回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. ×1年4月1日、以下の条件でリース会社と備品のリース契約を締結した。なお、このリース取引はオペレーティング・リース取引である。

リース期間：5年

リース料：年額 ￥120,000（支払日は毎年3月末日、後払い）

リース資産：見積現金購入価額 ￥540,000

耐用年数：6年

決算日：3月31日（会計期間は1年）

×2年3月31日において、1回目のリース料を小切手を振り出して支払った。

ア. 当座預金 イ. リース資産 ウ. 減価償却累計額 エ. リース債務 オ. 支払リース料
カ. 減価償却費 キ. 支払利息

2. 決算において、保有している営業用車両（購入代価 ￥3,000,000、付随費用 ￥300,000、残存価額：ゼロ、総走行可能距離：100,000km、前期末までの走行距離：44,000km、当期末までの走行距離：56,000km、償却方法：生産高比例法、記帳方法：直接法）の減価償却を行った。

ア. 車両 イ. 車両減価償却累計額 ウ. 固定資産売却益 エ. 減価償却費 オ. 固定資産売却損

3. 商品 ￥330,000（消費税込み）を販売し、このうち ￥110,000（消費税込み）は以前に当社が振り出した約束手形を受け取り、残額はクレジット払いとした。また、信販会社へのクレジット手数料（クレジットによる販売代金の4%）もあわせて計上した。なお、消費税の税率は10%とし、税抜方式で処理するが、クレジット手数料に消費税は課税されない。

ア. クレジット売掛金 イ. 受取手形 ウ. 仮払消費税 エ. 支払手形 オ. 仮受消費税
カ. 売上 キ. 支払手数料 ク. 租税公課

4. 決算にあたり、長期投資目的で取得していた森見ファンタジー株式会社の株式1,000株（取得時の時価：1株あたり ￥400）を時価評価（決算時の時価：1株あたり ￥350）し、全部純資産直入法を適用した。なお、法人税等の実効税率は40%とし、時価評価にあたっては税効果会計を適用すること。

ア. 満期保有目的債券 イ. その他有価証券 ウ. 繰延税金資産 エ. 繰延税金負債
オ. その他有価証券評価差額金 カ. 有価証券評価益 キ. 有価証券評価損 ク. 法人税等調整額

5. 決算において、本店は支店から「当期純利益 ￥720,000を計上した」との報告を受けた。本店側の仕訳を答えなさい。なお、当社は支店独立会計制度を採用している。

ア. 資本金 イ. 資本準備金 ウ. 利益準備金 エ. 繰越利益剰余金 オ. 本店 カ. 支店
キ. 損益

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第4回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 外部に開発を依頼していた社内利用目的のソフトウェア（開発費用 ￥ 3,000,000 はすでに支払済み）が完成し、本日から使用を開始したためソフトウェア勘定に振り替えた。また、開発費用の中に使用開始後にかかるシステム関係の保守費用 ￥ 500,000 が含まれていることが判明したため、適切に処理することにした。

ア. 仮払金 イ. ソフトウェア ウ. ソフトウェア仮勘定 エ. 未払金 オ. 研究開発費
カ. 保守費 キ. ソフトウェア償却 ク. ソフトウェア除却損

2. 池井戸商店に商品 ￥ 300,000 をクレジット払いの条件で販売した。なお、信販会社への手数料は販売代金の5%で、販売時に計上している。

ア. クレジット売掛金 イ. 未収入金 ウ. 売上 エ. 受取手数料 オ. 仕入 カ. 支払手数料

3. ×2年12月16日に購入したコピー機（取得原価：￥ 360,000、残存価額：ゼロ、耐用年数：6年、償却方法：定額法、記帳方法：間接法）を×6年12月15日に除却した。このコピー機は直ちに倉庫に移管し、その処分価額を ￥ 80,000 と見積もった。なお、当社の決算は3月31日（年1回）であり、減価償却は月割計算で行っている。

ア. 未収入金 イ. 貯蔵品 ウ. 備品 エ. 備品減価償却累計額 オ. 固定資産売却益
カ. 減価償却費 キ. 固定資産売却損 ク. 固定資産除却損

4. ×1年6月29日に行われた森オールエフ株式会社（決算日：3月31日・年1回）の株主総会で、繰越利益剰余金 ￥ 3,000,000 を以下のとおりに処分することが承認された。

株主配当金：1株につき ￥ 800
利益準備金：会社法の定める金額
修繕積立金：￥ 1,000,000

なお、株主総会時点の同社の資本金は ￥ 10,000,000、資本準備金は ￥ 1,600,000、利益準備金は ￥ 800,000 であり、発行済株式数は2,000株である。

ア. 未払配当金 イ. 資本金 ウ. 資本準備金 エ. 利益準備金 オ. 修繕積立金
カ. 繰越利益剰余金 キ. 受取配当金

5. 給料を支払うさいに控除していた社会保険料 ￥ 560,000 と、同額の会社負担分をあわせて現金で納付した。

ア. 現金預金 イ. 立替金 ウ. 未払金 エ. 社会保険料預り金 オ. 給料 カ. 法定福利費
キ. 保険料 ク. 租税公課

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第5回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 営業用車両（現金販売価額：¥ 1,980,000）を割賦契約で購入した。代金は毎月 20 日に支払期限の到来する額面 ¥ 400,000 の約束手形 5 枚を振り出して支払った。なお、利息分は購入時に費用として処理することにした。

ア. 前払利息 イ. 車両運搬具 ウ. 買掛金 エ. 支払手形 オ. 営業外支払手形
カ. 未払金 キ. 仕入 ク. 支払利息

2. 欧州の取引先から、商品 1,000 ユーロの代金を 1 か月後に支払う条件で輸入した。輸入時の直物為替相場は 1 ユーロ ¥ 120 であったが、輸入に先立って 10,000 ユーロを 1 か月後に 1 ユーロ ¥ 125 で購入する為替予約を結んでいたため、この為替予約により振当処理を行うことにした。

ア. 前払金 イ. 仮払金 ウ. 買掛金 エ. 未払金 オ. 仕入 カ. 為替差損益

3. 前期中に @¥ 1,200 で購入し、前期末決算で @¥ 1,000 に評価替え（切放方式を適用）していた売買目的有価証券 2,000 株を @¥ 1,100 で売却し、売買手数料 ¥ 11,000 が差し引かれた残額が当座預金口座に振り込まれた。なお、売買手数料は有価証券売却益または売却損に加減して処理すること。

ア. 当座預金 イ. 普通預金 ウ. 売買目的有価証券 エ. 受取手数料 オ. 有価証券利息
カ. 有価証券売却益 キ. 支払手数料 ク. 有価証券売却損

4. 当期首において灰谷ラビット株式会社を吸収合併し、新たに当社の株式 300 株（時価：@¥ 20,000）を同社の株主に交付した。同社から承継した資産および負債は、以下のとおりである。なお、株式の交付にともなって増加する株主資本は、70%を資本金、残りを資本準備金として計上することにした。

現金（帳簿価額：¥ 2,100,000 時価：¥ 2,100,000）
売掛金（帳簿価額：¥ 2,800,000 時価：¥ 2,800,000）
商品（帳簿価額：¥ 1,500,000 時価：¥ 1,600,000）
買掛金（帳簿価額：¥ 1,000,000 時価：¥ 1,000,000）

ア. 現金 イ. 売掛金 ウ. のれん エ. 買掛金 オ. 資本金 カ. 資本準備金
キ. 負ののれん発生益 ク. 仕入

5. 火災により焼失した建物（取得原価：¥ 12,000,000、残存価額：ゼロ、耐用年数：40 年、償却方法：定額法、記帳方法：直接法）に関し請求していた保険金について、本日、保険会社から ¥ 4,500,000 を支払う旨の連絡を受けた。

この建物は、×02 年 4 月 1 日に取得したもので、×27 年 9 月 30 日に火災があり、火災発生日の簿価の全額を未決算勘定に振り替えていた。なお、当社の決算は 3 月 31 日（年 1 回）であり、減価償却は月割計算で行っている。

ア. 未収入金 イ. 建物 ウ. 建物減価償却累計額 エ. 保険差益 オ. 減価償却費
カ. 保険料 キ. 火災損失 ク. 未決算

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第6回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適当と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 不要となった機械装置を重松商店に売却したさい、代金として同店振り出しの約束手形 ￥ 550,000 を受け取っていたが、この手形が満期日を迎えても決済されていないことが判明したため、重松商店に対して支払請求を行った。なお、支払請求に要した費用 ￥ 10,000 は現金で支払った。

ア. 現金 イ. 受取手形 ウ. 営業外受取手形 エ. 不渡手形 オ. 機械装置
カ. 営業外支払手形 キ. 支払手数料 ク. 支払利息

2. 前期に販売した商品に対して修理の申し出があったので、修理業者に修理を依頼し、修理代金 ￥ 66,000 を現金で支払った。なお、前期の決算において売上高 ￥ 10,000,000 の 0.5% を商品保証引当金に計上している。

ア. 現金 イ. 商品保証引当金 ウ. 修繕引当金 エ. 売上 オ. 商品保証引当金戻入
カ. 商品保証費 キ. 修繕費

3. 当期首(×3年4月1日)において、×1年10月1日に購入したデスクトップ型パソコン(取得原価 ￥ 320,000、残存価額：ゼロ、耐用年数：4年、償却方法：200%定率法、記帳方法：間接法)を、新しいノートブック型パソコンに買い換えた。

ノートブック型パソコンの取得原価は ￥ 400,000、デスクトップ型パソコンの下取価額は ￥ 100,000 で、下取価額を差し引いた代金は翌月末に支払うことにした。なお、当社の決算日は3月末日(会計期間は1年)であり、デスクトップ型パソコンを購入した年度の減価償却費は月割りで計算すること。

ア. 未収入金 イ. 貯蔵品 ウ. 備品 エ. 備品減価償却累計額 オ. 未払金
カ. 固定資産売却益 キ. 減価償却費 ク. 固定資産売却損

4. ×1年6月28日に行われた浅田スモーク株式会社(決算日：3月31日・年1回)の株主総会で、繰越利益剰余金 ￥ 5,500,000 を以下のとおりに処分することが承認された。

株主配当金：1株につき ￥ 1,000

利益準備金：会社法の定める金額

新築積立金：￥ 2,000,000

なお、株主総会時点の同社の資本金は ￥ 10,000,000、資本準備金は ￥ 1,400,000、利益準備金は ￥ 700,000 であり、発行済株式数は 3,000 株である。

ア. 未払配当金 イ. 資本金 ウ. 資本準備金 エ. 利益準備金 オ. 新築積立金
カ. 繰越利益剰余金 キ. 受取配当金 ク. 損益

5. 決算において、備品の減価償却費 ￥ 360,000 を計上したが、そのうちの ￥ 40,000 は税法上、損金に算入することが認められなかったため、税効果会計の処理を行う。なお、法人税等の実効税率は 40% とする。

ア. 繰延税金資産 イ. 備品 ウ. 備品減価償却累計額 エ. 未払法人税等 オ. 繰延税金負債
カ. 法人税等 キ. 減価償却費 ク. 法人税等調整額

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第7回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 当期首において、下記の条件でリース会社と備品のリース契約を締結した。このリース取引はファイナンス・リース取引に該当するため、利子抜き法により処理することにした。

リース期間：5年

リース料：年額 ￥200,000（毎年3月末日払い）

リース資産：見積現金購入価額 ￥900,000

ア. リース資産 イ. 減価償却累計額 ウ. リース債務 エ. 減価償却費 オ. 支払利息

2. 先日、米国の得意先に対して商品1,000ドルを掛けて販売し、同日の直物為替相場で記帳処理していたが、本日、同得意先に対する売掛金1,000ドルについて、先物為替相場で為替予約を付した。なお、為替予約の処理にあたっては振当処理を適用し、販売時の為替相場による円換算額と、為替予約による円換算額との差額はすべて当期の損益として処理すること。

販売時の直物為替相場：1ドル ￥112

為替予約時の直物為替相場：1ドル ￥113

販売時の先物為替相場：1ドル ￥114

為替予約時の先物為替相場：1ドル ￥115

ア. 現金 イ. 売掛金 ウ. 未収入金 エ. 売上 オ. 為替差損益

3. 会社の設立にあたり、発行可能株式総数500株のうち300株を1株あたり ￥10,000で発行し、払込金の全額が普通預金口座に振り込まれた。なお、資本金に計上する額は、会社法が規定する最低限度額とする。また、現金で支払った株式の発行にかかる費用 ￥100,000 および設立登記にかかる費用 ￥250,000 は、当期の費用として処理することにした。

ア. 現金 イ. 普通預金 ウ. 資本金 エ. 資本準備金 オ. 創立費 カ. 株式交付費
キ. 開業費 ク. 開発費

4. 不動産仲介業を営む村上ノーベル株式会社は、顧客から依頼があった案件にかかる給料 ￥300,000 および広告宣伝費 ￥110,000 を仕掛品として処理していた（※適切に処理済み）。

本日、上記案件にかかるサービスの提供が完了し、対価として顧客が振り出した小切手 ￥550,000 を受け取ったため、収益およびこれに対応する費用を計上する。

ア. 現金 イ. 当座預金 ウ. 売掛金 エ. 仕掛品 オ. 役務収益 カ. 役務原価
キ. 給料 ク. 広告宣伝費

5. ×1年12月10日に購入した社用車（取得原価 ￥3,000,000、残存価額：ゼロ、償却方法：生産高比例法、記帳方法：間接法、総走行可能距離：12万キロ、売却時点の実際走行距離：9万キロ、当期の実際走行距離：2万キロ）を、×4年12月9日に ￥1,000,000 で売却し、代金は相手方振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。なお、当社の決算日は3月末日（会計期間は1年）である。

ア. 当座預金 イ. 未収入金 ウ. 車両 エ. 車両減価償却累計額 オ. 固定資産売却益
カ. 減価償却費 キ. 固定資産売却損

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第8回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 綾辻商店は、火災により店舗（取得原価：¥ 6,000,000、焼失時の減価償却累計額：¥ 3,000,000、記帳方法：間接法）および店舗にて保管していた商品（購入代価：¥ 1,400,000、付随費用：¥ 100,000、売価：¥ 2,000,000、記帳方法：三分法）を焼失したが、これらの資産については保険金額 ¥ 5,000,000 の火災保険に加入していたので、ただちに保険会社に保険金の支払いを請求した。

ア. 未収入金 イ. 建物 ウ. 建物減価償却累計額 エ. 保険差益 オ. 仕入 カ. 減価償却費
キ. 火災損失 ク. 火災未決算

2. ×1年6月19日に、満期日まで保有する目的で司馬ヒストリー株式会社の社債（額面総額：¥ 3,000,000、年利率：3.65%、利払日：9月末日と3月末日の年2回）を額面 ¥ 100につき ¥ 97.5 で買い入れ、代金は証券会社への手数料 ¥ 11,000 および端数利息とともに小切手を振り出して支払った。なお、端数利息は1年を365日として、前回の利払日の翌日から売買日までの期間に相当する金額を日割りで計算すること。

ア. 当座預金 イ. 売買目的有価証券 ウ. 満期保有目的債券 エ. その他有価証券
オ. 未収入金 カ. 有価証券利息 キ. 支払利息

3. 備品 ¥ 500,000 の取得に先立って、国庫補助金 ¥ 200,000 を受け取っていたが、誤って前受金の増加として処理していたことが判明した。本日、この誤りを修正するとともに、当該補助金を返還しないことが確定したため、直接控除方式により圧縮記帳の処理を行った。

ア. 現金 イ. 備品 ウ. 備品減価償却累計額 エ. 前受金 オ. 仮受金
カ. 国庫補助金受贈益 キ. 固定資産圧縮損

4. 新たに200株（1株あたりの払込金額は ¥ 30,000）を発行して増資を行うことになり、申込期日までにその全額が申込証拠金として別段預金に払い込まれていたが、本日、申込期日が到来したので、その払込額を資本金に振り替え、かつ、別段預金を普通預金へ振り替えた。なお、当社では申込証拠金を資本金に充当するさいには、会社法が規定する最低額を組み入れることにしている。

ア. 当座預金 イ. 普通預金 ウ. 別段預金 エ. 預り金 オ. 資本金 カ. 株式払込剰余金
キ. 利益準備金 ク. 株式申込証拠金

5. 先日、中国の取引先から、商品10,000元の代金を2か月後に支払う条件で輸入した。輸入時の直物為替相場は1元 ¥ 15であったが、輸入と同時に10,000元を2か月後に1元 ¥ 16で購入する為替予約を結んだため、この為替予約により振当処理を行った（※以上、すべて適切に処理済み）。

輸入から2か月後にあたる本日、買掛金10,000元を普通預金から支払った。なお、決済時の直物為替相場は1元 ¥ 17である。

ア. 普通預金 イ. 買掛金 ウ. 未払金 エ. 仕入 オ. 為替差損益

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第9回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 東野商店から商品 ￥ 300,000 を仕入れ、代金は掛けとした。なお、商品の引取運賃 ￥ 2,000 は現金で支払った。商品売買については、商品を仕入れたときに商品勘定に記入し、販売したときにそのつど売上原価を売上原価勘定に振り替える方法で記帳している。

ア. 現金 イ. 商品 ウ. 買掛金 エ. 未払金 オ. 仕入 カ. 売上原価 キ. 支払運賃

2. 事務所の増設工事（工事代金 ￥ 10,000,000 は工事完成前に全額支払い済み）が完成したため、工事の明細（建物：￥ 8,000,000、構築物：￥ 1,500,000、修繕費：￥ 500,000）に従って勘定科目の振り替えを行う。なお、修繕引当金の残高は ￥ 600,000 である。

ア. 現金 イ. 建物 ウ. 建物減価償却累計額 エ. 建設仮勘定 オ. 構築物 カ. 修繕引当金
キ. 減価償却費 ク. 修繕費

3. 決算において、税引前当期純利益 ￥ 1,000,000 を計上したが、貸倒引当金繰入の損金不算入額 ￥ 10,000 および減価償却費の損金不算入額 ￥ 90,000 があることが判明した。当期の法人税等の法定実効税率を 40% として、未払法人税等を計上する。なお、中間申告のさいに計上した仮払法人税等の残高は ￥ 250,000 である。

ア. 仮払法人税等 イ. 繰延税金資産 ウ. 未払法人税等 エ. 繰延税金負債 オ. 法人税等
カ. 追徴法人税等 キ. 法人税等調整額 ク. 損益

4. 定時株主総会において、剰余金の配当が以下のとおり承認された。

- ・その他資本剰余金 ￥ 400,000 および繰越利益剰余金 ￥ 1,200,000 を財源として配当を行う。
- ・上記の配当に関連して、会社法が定める金額を準備金として積み立てる。

なお、株主総会時点の同社の資本金は ￥ 10,000,000、資本準備金は ￥ 1,800,000、利益準備金は ￥ 600,000 であった。

ア. 未払配当金 イ. 資本金 ウ. 資本準備金 エ. その他資本剰余金 オ. 利益準備金
カ. 繰越利益剰余金 キ. 受取配当金

5. 資格教育サービスを運営する瀬尾アカデミー株式会社は、新たに簿記検定対策講座を開講し、生徒から受講料 ￥ 360,000 を受け取った（※適切に処理済み）。

決算において、簿記検定対策講座にかかる当期の収益を計上する。なお、決算日時点で全 24 講義のうち 8 講義が完了している。

ア. 現金 イ. 売掛金 ウ. 未収入金 エ. 仕掛品 オ. 前受金 カ. 売上 キ. 役務収益
ク. 役務原価

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第10回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 原料 300kg（購入代価：1,000 円/kg）、買入部品 400 枚（購入代価：500 円/枚）、補助材料 100,000 円（購入代価）を現金で購入した。なお、購入時に購入代価の 10%を材料副費として予定配賦している。

ア. 製品 イ. 仕掛品 ウ. 材料 エ. 材料副費 オ. 材料副費差異 カ. 製造間接費
キ. 現金 ク. 買掛金

2. 工場での賃金の消費額を計上した。当月の作業記録によると直接工の直接作業時間は 600 時間、間接作業時間は 100 時間、手待時間は 50 時間であった。当工場で適用する予定総平均賃率は 2,000 円である。また、間接工については、前月賃金未払高が 350,000 円、当月賃金支払高が 800,000 円、当月賃金未払高が 250,000 円であった。

ア. 材料 イ. 賃金・給料 ウ. 仕掛品 エ. 製造間接費 オ. 製品 カ. 売上原価

3. 当工場では、購入した原料を外注業者に無償支給し、加工の一部を依頼している。また、加工業者から返送された加工品は、ただちに製造現場に引き渡している。当月、外注業者に表面処理の加工賃 88,000 円を現金で支払った。

ア. 材料 イ. 賃金・給料 ウ. 仕掛品 エ. 製造間接費 オ. 製品 カ. 売上原価
キ. 現金

4. 直接作業時間を配賦基準として製造間接費を各製造指図書に予定配賦した。なお、当工場の年間製造間接費予算は 12,000,000 円、年間予定総直接作業時間は 5,000 時間、当月の直接作業時間は 400 時間である。

ア. 材料 イ. 賃金・給料 ウ. 仕掛品 エ. 製造間接費 オ. 製品 カ. 売上原価

5. 製品製造用の素材 500kg（購入代価：800 円/kg）、工場で使用する消耗工具器具備品 150,000 円（購入代価）を掛けで購入して倉庫に搬入した。なお、購入あたって本社は 10,000 円の引取運賃を現金で支払った。また、当工場では工場会計を独立させており、工場元帳には以下の勘定科目が設定されている。工場において行われる仕訳を示しなさい。

ア. 材料 イ. 賃金 ウ. 製造間接費 エ. 仕掛品 オ. 原価差異 カ. 製品 キ. 本社

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第1回 解答

問	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	ク (支 払 利 息)	10,000	ア (現 金)	100,000
	オ (リ ー ス 債 務)	90,000		
	カ (減 価 償 却 費)	90,000	ウ (減 価 償 却 累 計 額)	90,000
2	イ (売 掛 金)	400,000	オ (売 上)	400,000
	キ (売 上 原 価)	300,000	エ (商 品)	300,000
	ク (発 送 費)	5,000	ア (現 金)	5,000
3	ウ (受 取 手 形)	300,000	ウ (受 取 手 形)	300,000
	ア (現 金)	3,000	キ (受 取 利 息)	3,000
4	イ (普 通 預 金)	1,002,000	ウ (定 期 預 金)	1,000,000
	エ (仮 払 法 人 税 等)	500	キ (受 取 利 息)	2,500
5	イ (受 取 商 品 券)	50,000	ク (東 京 支 店)	60,000
	オ (租 税 公 課)	10,000		

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第2回 解答

問	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	ウ (建 物)	600,000	イ (普 通 預 金)	2,000,000
	カ (修 繕 引 当 金)	1,200,000		
	ク (修 繕 費)	200,000		
2	イ (普 通 預 金)	985,000	ウ (売 買 目 的 有 価 証 券)	980,000
	ク (有 価 証 券 売 却 損)	9,000	オ (有 価 証 券 利 息)	14,000
3	カ (仕 入)	400,000	ウ (買 掛 金)	440,000
	ク (研 究 開 発 費)	600,000	エ (未 払 金)	660,000
	ア (仮 払 消 費 税)	100,000		
4	カ (減 価 償 却 費)	5,100	ウ (備 品 減 価 償 却 累 計 額)	5,100
5	イ (売 掛 金)	900,000	オ (長 期 借 入 金)	400,000
	ウ (商 品)	800,000	ア (現 金)	1,200,000
			キ (負 の の れ ん 発 生 益)	100,000

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第3回 解答

問	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	オ (支 払 リ ー ス 料)	120,000	ア (当 座 預 金)	120,000
2	エ (減 価 償 却 費)	396,000	ア (車 両)	396,000
3	エ (支 払 手 形)	110,000	カ (売 上)	300,000
	キ (支 払 手 数 料)	8,000	オ (仮 受 消 費 税)	30,000
	ア (クレジット売掛金)	212,000		
4	オ (その他有価証券評価差額金)	30,000	イ (その他有価証券)	50,000
	ウ (繰 延 税 金 資 産)	20,000		
5	カ (支 店)	720,000	キ (損 益)	720,000

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第4回 解答

問	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	イ (ソフトウェア) カ (保 守 費)	2,500,000 500,000	ウ (ソフトウェア仮勘定)	3,000,000
2	ア (クレジット売掛金) カ (支 払 手 数 料)	285,000 15,000	ウ (売 上)	300,000
3	カ (減 価 償 却 費) エ (備品減価償却累計額) イ (貯 蔵 品) ク (固 定 資 産 除 却 損)	45,000 200,000 80,000 35,000	ウ (備 品)	360,000
4	カ (繰越利益剰余金)	2,700,000	ア (未 払 配 当 金) エ (利 益 準 備 金) オ (修 繕 積 立 金)	1,600,000 100,000 1,000,000
5	エ (社会保険料預り金) カ (法 定 福 利 費)	560,000 560,000	ア (現 金 預 金)	1,120,000

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第5回 解答

問	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	イ (車 両 運 搬 具) ク (支 払 利 息)	1,980,000 20,000	オ (営業外支払手形)	2,000,000
2	オ (仕 入)	125,000	ウ (買 掛 金)	125,000
3	ア (当 座 預 金)	2,189,000	ウ (売買目的有価証券) カ (有価証券売却益)	2,000,000 189,000
4	ア (現 金) イ (売 掛 金) ク (仕 入) ウ (の れ ん)	2,100,000 2,800,000 1,600,000 500,000	エ (買 掛 金) オ (資 本 金) カ (資 本 準 備 金)	1,000,000 4,200,000 1,800,000
5	ア (未 収 入 金)	4,500,000	ク (未 決 算) エ (保 険 差 益)	4,350,000 150,000

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第6回 解答

問	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	エ (不 渡 手 形)	560,000	ウ (営業外受取手形) ア (現 金)	550,000 10,000
2	イ (商品保証引当金) カ (商 品 保 証 費)	50,000 16,000	ア (現 金)	66,000
3	ウ (備 品) エ (備品減価償却累計額) ク (固 定 資 産 売 却 損)	400,000 200,000 20,000	ウ (備 品) オ (未 払 金)	320,000 300,000
4	カ (繰越利益剰余金)	5,300,000	ア (未 払 配 当 金) エ (利 益 準 備 金) オ (新 築 積 立 金)	3,000,000 300,000 2,000,000
5	ア (繰延税金資産)	16,000	ク (法人税等調整額)	16,000

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第7回 解答

問	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	ア (リ ー ス 資 産)	900,000	ウ (リ ー ス 債 務)	900,000
2	イ (売 掛 金)	3,000	オ (為 替 差 損 益)	3,000
3	イ (普 通 預 金)	3,000,000	ウ (資 本 金)	1,500,000
	オ (創 立 費)	350,000	エ (資 本 準 備 金)	1,500,000
4	ア (現 金)	550,000	ア (現 金)	350,000
	カ (役 務 原 価)	410,000	オ (役 務 収 益)	550,000
5	カ (減 価 償 却 費)	500,000	エ (仕 掛 品)	410,000
	エ (車 両 減 価 償 却 累 計 額)	1,750,000	ウ (車 両)	3,000,000
	ア (当 座 預 金)	1,000,000	オ (固 定 資 産 売 却 益)	250,000

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第8回 解答

問	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	ウ (建物減価償却累計額)	3,000,000	イ (建 物)	6,000,000
	ク (火 災 未 決 算)	4,500,000	オ (仕 入)	1,500,000
2	ウ (満期保有目的債券)	2,936,000	ア (当 座 預 金)	2,960,000
	カ (有 価 証 券 利 息)	24,000		
3	エ (前 受 金)	200,000	カ (国庫補助金受贈益)	200,000
	キ (固 定 資 産 圧 縮 損)	200,000	イ (備 品)	200,000
4	ク (株 式 申 込 証 拠 金)	6,000,000	オ (資 本 金)	3,000,000
	イ (普 通 預 金)	6,000,000	カ (株 式 払 込 剰 余 金)	3,000,000
5	イ (買 掛 金)	160,000	ウ (別 段 預 金)	6,000,000
			ア (普 通 預 金)	160,000

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第9回 解答

問	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	イ (商 品)	302,000	ウ (買 掛 金)	300,000
			ア (現 金)	2,000
2	イ (建 物)	8,000,000	エ (建 設 仮 勘 定)	10,000,000
	オ (構 築 物)	1,500,000		
3	カ (修 繕 引 当 金)	500,000		
	オ (法 人 税 等)	440,000	ア (仮 払 法 人 税 等)	250,000
4	エ (その他資本剰余金)	425,000	ウ (未 払 法 人 税 等)	190,000
	カ (繰 越 利 益 剰 余 金)	1,275,000	ア (未 払 配 当 金)	1,600,000
5	オ (前 受 金)	120,000	ウ (資 本 準 備 金)	25,000
			オ (利 益 準 備 金)	75,000
			キ (役 務 収 益)	120,000

簿記2級 重要仕訳 TOP100・A ランク 第10回 解答

問	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	ウ (材 料)	660,000	キ (現 金) エ (材 料 副 費)	600,000 60,000
2	ウ (仕 掛 品) エ (製 造 間 接 費)	1,200,000 1,000,000	イ (賃 金 ・ 給 料)	2,200,000
3	ウ (仕 掛 品)	88,000	キ (現 金)	88,000
4	ウ (仕 掛 品)	960,000	エ (製 造 間 接 費)	960,000
5	ア (材 料)	560,000	キ (本 社)	560,000

※重要仕訳 TOP100 の PDF は、本試験を想定してランダムに組み合わせて出題しています。論点ごとにまとめた WEB 上の解説とは順番が異なりますので、解説をご確認いただく場合は、以下の「PDF 用の解説一覧ページ」をご利用ください。

URL : <https://boki-navi.com/2qr2021/>

QR コード :



簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第1回

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	有価証券の評価替え（満期保有目的債券）	高・中・低	4－8	✓✓✓✓✓	
2	税効果会計（損金算入）	高・中・低	7－7	✓✓✓✓✓	
3	固定資産の廃棄	高・中・低	5－12	✓✓✓✓✓	
4	新株発行（増資時）	高・中・低	8－2	✓✓✓✓✓	
5	無形固定資産（特許権の償却）	高・中・低	5－22	✓✓✓✓✓	

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第2回

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	固定資産の減価償却（改定償却率）	高・中・低	5－17	✓✓✓✓✓	
2	電子記録債権（譲渡）	高・中・低	2－5	✓✓✓✓✓	
3	利益処分（資本剰余金）	高・中・低	8－7	✓✓✓✓✓	
4	有価証券の購入（関連会社株式）	高・中・低	4－2	✓✓✓✓✓	
5	法人税等（追徴・還付）	高・中・低	7－3	✓✓✓✓✓	

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第3回

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	有価証券の購入（子会社株式）	高・中・低	4－3	✓✓✓✓✓	
2	手形の更改（利息の処理②）	高・中・低	2－11	✓✓✓✓✓	
3	株式申込証拠金（申込期日の処理）	高・中・低	8－3	✓✓✓✓✓	
4	本支店会計（本店集中計算制度）	高・中・低	9－2	✓✓✓✓✓	
5	固定資産の減失（未決算の計上②）	高・中・低	5－14	✓✓✓✓✓	

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第4回

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	仕入取引（引取運賃）	高・中・低	1－3	✓✓✓✓✓	
2	有価証券の売却（その他有価証券）	高・中・低	4－5	✓✓✓✓✓	
3	固定資産の取得（国庫補助金）	高・中・低	5－3	✓✓✓✓✓	
4	オペレーティング・リース取引（決算処理）	高・中・低	6－6	✓✓✓✓✓	
5	債務の保証	高・中・低	2－12	✓✓✓✓✓	

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第5回

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	電子記録債権（割引）	高・中・低	2－6	✓✓✓✓✓	
2	課税所得の計算（益金不算入）	高・中・低	7－5	✓✓✓✓✓	
3	有価証券の売却（平均原価法）	高・中・低	4－7	✓✓✓✓✓	
4	固定資産の減価償却（月割償却②）	高・中・低	5－19	✓✓✓✓✓	
5	銀行勘定調整表（未渡小切手）	高・中・低	10－3	✓✓✓✓✓	

簿記2級 重要仕訳 TOP100・Bランク 第6回

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	役務収益・役務原価（収益・費用の計上②）	高・中・低	2－3	✓✓✓✓✓	
2	固定資産の売却（直接法）	高・中・低	5－8	✓✓✓✓✓	
3	外貨建取引（決算処理）	高・中・低	3－4	✓✓✓✓✓	
4	仕入取引（検収基準）	高・中・低	1－4	✓✓✓✓✓	
5	株主資本の計数変動	高・中・低	8－10	✓✓✓✓✓	

簿記2級 重要仕訳 TOP100・Bランク 第7回

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	仕入取引（割戻）	高・中・低	1－5	✓✓✓✓✓	
2	不渡手形（貸倒れ）	高・中・低	2－9	✓✓✓✓✓	
3	ファイナンス・リース取引（契約時の処理②）	高・中・低	6－2	✓✓✓✓✓	
4	無形固定資産（ソフトウェアの除却）	高・中・低	5－21	✓✓✓✓✓	
5	欠損てん補	高・中・低	8－9	✓✓✓✓✓	

簿記2級 重要仕訳 TOP100・Bランク 第8回

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	貸倒引当金の設定	高・中・低	2－4	✓✓✓✓✓	
2	固定資産の取得（不動産取得税）	高・中・低	5－6	✓✓✓✓✓	
3	賞与引当金	高・中・低	10－4	✓✓✓✓✓	
4	有価証券の評価替え（その他有価証券）	高・中・低	4－9	✓✓✓✓✓	
5	仕入取引（割引）	高・中・低	1－6	✓✓✓✓✓	

簿記2級 重要仕訳 TOP100・Bランク 第9回

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	固定資産の取得（割戻）	高・中・低	5－5	✓✓✓✓✓	
2	売掛金の譲渡	高・中・低	2－7	✓✓✓✓✓	
3	売上取引（引渡基準）	高・中・低	1－10	✓✓✓✓✓	
4	一年基準	高・中・低	10－5	✓✓✓✓✓	
5	ファイナンス・リース取引（決算処理②）	高・中・低	6－4	✓✓✓✓✓	

簿記2級 重要仕訳 TOP100・Bランク 第10回

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	材料の消費	高・中・低	11－3	✓✓✓✓✓	
2	棚卸減耗費の計上	高・中・低	11－4	✓✓✓✓✓	
3	労務費の計算（本社工場会計）	高・中・低	11－6	✓✓✓✓✓	
4	賃率差異の計上	高・中・低	11－7	✓✓✓✓✓	
5	製造間接費配賦差異の計上	高・中・低	11－10	✓✓✓✓✓	

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第1回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. ×1年10月1日において、満期まで保有する目的で吉本フルーツ株式会社の社債（額面総額：¥ 1,000,000、償還期間：5年）を額面 ¥ 100につき ¥ 102で発行と同時に購入し、代金は小切手を振り出して支払った（※適切に処理済み）。

当期末（×2年3月31日）の決算において、償却原価法（定額法）を適用して帳簿価額の評価替えを行う。なお、社債の決算日の時価は額面 ¥ 100につき ¥ 101である。

ア. 当座預金 イ. 有価証券 ウ. 投資有価証券 エ. 関係会社株式 オ. 有価証券利息
カ. 支払利息

2. 損金に算入することが認められなかった前期の備品の減価償却費 ¥ 40,000 について、この備品を当期首に売却したことにより当期の損金に算入することが認められた。決算において、法人税等の実効税率を 40% として税効果会計の処理を行う。

ア. 仮払法人税等 イ. 備品 ウ. 備品減価償却累計額 エ. 繰延税金資産 オ. 未払法人税等
カ. 繰延税金負債 キ. 減価償却費 ク. 法人税等調整額

3. ×3年4月1日に購入した製造用機械（耐用年数：5年、残存価額：ゼロ、償却方法：定額法、記帳方法：間接法、当期首時点の帳簿価額：¥ 180,000）を×6年11月22日に廃棄した。なお、当社の決算は3月31日（年1回）であり、減価償却は月割計算で行っている。

ア. 未収入金 イ. 貯蔵品 ウ. 機械装置 エ. 機械装置減価償却累計額 オ. 減価償却費
カ. 固定資産除却損 キ. 固定資産廃棄損

4. 株式 500 株を 1 株あたり ¥ 10,000 で発行し、払込金の全額が当座預金口座に振り込まれた。また、株主を募集するために現金で支払った広告宣伝費 ¥ 220,000 は、当期の費用として処理することにした。

ア. 現金 イ. 当座預金 ウ. 資本金 エ. 資本準備金 オ. 利益準備金 カ. 創立費
キ. 株式交付費 ク. 広告宣伝費

5. 決算において、前期首に取得した特許権（当期首の帳簿価額：¥ 560,000）を定額法により償却した。なお、当社は特許権を耐用年数 8 年で每期均等償却している。

ア. のれん イ. 特許権 ウ. 商標権 エ. 減価償却累計額 オ. のれん償却 カ. 特許権償却

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第2回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 当期末（×5年3月31日）において、×1年4月1日に購入した備品（購入代価 ￥ 900,000、付随費用： ￥ 100,000、耐用年数：5年、残存価額：ゼロ、償却方法：200%定率法、保証率：0.10800、改定償却率：0.500、記帳方法：間接法）の減価償却を行った。なお、当社の決算日は3月末日（会計期間は1年）である。

ア. 備品 イ. 備品減価償却累計額 ウ. 固定資産売却益 エ. 減価償却費 オ. 支払手数料
カ. 固定資産除却損 キ. 固定資産売却損

2. 所有する電子記録債権のうち ￥ 200,000 を原田商店に売却し、譲渡記録を行った。なお、売却代金 ￥ 190,000 は以前に当社が振り出した小切手を受け取った。

ア. 現金 イ. 当座預金 ウ. 受取手形 エ. 売掛金 オ. 電子記録債権 カ. 電子記録債務
キ. 電子記録債権売却損

3. 定時株主総会において、剰余金の配当および処分が以下のとおり承認された。

- ・その他資本剰余金 ￥ 800,000 を財源として配当を行う。
- ・上記の配当に関連して、会社法が定める金額を準備金として積み立てる。
- ・繰越利益剰余金 ￥ 500,000 を別途積立金に振り替える。

なお、株主総会時点の同社の資本金は ￥ 20,000,000、資本準備金は ￥ 2,900,000、利益準備金は ￥ 2,000,000 であった。

ア. 未払配当金 イ. 資本金 ウ. 資本準備金 エ. その他資本剰余金 オ. 利益準備金
カ. 繰越利益剰余金 キ. 別途積立金 ク. 受取配当金

4. 当期首において、長期保有目的で平山ダイニング株式会社の株式 ￥ 200,000（発行済株式の5%）を購入していたが、本日、影響力を行使する目的で発行済株式の25%を追加購入した。なお、25%分の購入代金 ￥ 1,100,000 は普通預金から支払った。

ア. 普通預金 イ. 売買目的有価証券 ウ. 満期保有目的債券 エ. その他有価証券
オ. 関連会社株式 カ. 子会社株式

5. 過年度分の法人税について追徴の指摘を受けたため、要納付額 ￥ 550,000 を普通預金から支払った。

ア. 当座預金 イ. 普通預金 ウ. 未収還付法人税等 エ. 法人税等 オ. 追徴法人税等
カ. 法人税等調整額 キ. 損益

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第3回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 支配権を獲得する目的で筒井サイエンス株式会社の株式 ￥ 2,500,000（発行済株式の60%）を購入し、代金は手数料 ￥ 10,000 とともに小切手を振り出して支払った。

ア. 当座預金 イ. 売買目的有価証券 ウ. 満期保有目的債券 エ. その他有価証券
オ. 関係会社株式 カ. 有価証券利息 キ. 支払手数料 ク. 支払利息

2. 備品を購入したさいに綿矢商店に振り出した約束手形 ￥ 500,000 について、資金繰りの悪化を理由に手形の更改を申し出たところ、綿矢商店の同意を得ることができたため旧手形と新手形を交換した。なお、支払期日の延長にともなう利息 ￥ 5,000 は新手形に含めることにした。

ア. 受取手形 イ. 営業外受取手形 ウ. 支払手形 エ. 営業外支払手形 オ. 未払利息
カ. 受取利息 キ. 支払利息

3. 新たに100株（1株あたりの払込金額は ￥ 50,000）を発行して増資を行うことになり、払い込まれた110株分の申込証拠金を別段預金に預け入れた。なお、当社では申込証拠金を資本金に充当するさいには、会社法が規定する最低額を組み入れることにしている。

ア. 別段預金 イ. 立替金 ウ. 預り金 エ. 資本金 オ. 新株式申込証拠金
カ. 資本準備金 キ. 利益準備金 ク. 繰越利益剰余金

4. 谷崎ナオミズム株式会社の横浜支店は、宇都宮支店から「横浜支店の広告宣伝費 ￥ 88,000 を現金で立て替え払いした」との報告を受けたので適切に処理した。なお、同社は本店集中計算制度を採用している。

ア. 現金 イ. 立替金 ウ. 未払金 エ. 広告宣伝費 オ. 本店 カ. 横浜支店
キ. 宇都宮支店

5. ×2年1月31日、建物（取得原価：￥ 9,000,000、前期末の減価償却累計額：￥ 1,650,000）が火災で焼失した。この建物には火災保険 ￥ 7,000,000 が掛けられていたので、当期の減価償却費を月割りで計上するとともに、ただちに保険会社に保険金の支払いを請求した。

なお、建物の減価償却は定額法（耐用年数：30年、残存価額：ゼロ、記帳方法：間接法）により行っており、決算日は3月31日（会計期間は1年）である。

ア. 未収入金 イ. 建物 ウ. 建物減価償却累計額 エ. 保険差益 オ. 減価償却費
カ. 保険料 キ. 火災損失 ク. 未決算

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第4回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 運送業者から前月分の運賃の請求書が送られてきたので、小切手を振り出して支払った。請求書の内訳は、商品の購入に関する引取運賃が ￥ 24,000、商品の販売に関する配送費用（当社負担）が ￥ 36,000 であった。

ア. 当座預金 イ. 立替金 ウ. 買掛金 エ. 預り金 オ. 仕入 カ. 発送費

2. 前期中に @￥ 800 で購入し、前期末決算で @￥ 700 に評価替え（全部純資産直入法による洗替方式を適用）していたその他有価証券 1,000 株を諸事情により @￥ 750 で売却し、代金は3営業日後に受け取ることにした。なお、再振替仕訳（評価差額の振戻仕訳）は期首において適切に行われている。

ア. 未収入金 イ. 売買目的有価証券 ウ. 満期保有目的債券 エ. その他有価証券
オ. 投資有価証券売却益 カ. 投資有価証券売却損 キ. その他有価証券評価差額金

3. 当期首において、備品の取得を助成するために国から交付された補助金 ￥ 300,000 を受け取り、普通預金とした。

ア. 普通預金 イ. 備品 ウ. 前受金 エ. 仮受金 オ. 預り金 カ. 国庫補助金受贈益
キ. 固定資産圧縮損

4. ×1年7月1日、以下の条件でリース会社と備品のリース契約を締結した。なお、このリース取引はオペレーティング・リース取引である。

リース期間：4年

リース料：年額 ￥ 60,000（支払日は毎年6月末日、現金後払い）

リース資産：見積現金購入価額 ￥ 200,000

耐用年数：5年

決算日：3月31日（会計期間は1年）

決算（×2年3月31日）において、当期の経過期間に対応する支払リース料を月割りで未払計上した。

ア. 現金 イ. リース資産 ウ. 減価償却累計額 エ. リース債務 オ. 未払リース料
カ. 支払リース料 キ. 減価償却費 ク. 支払利息

5. 債務を保証していた取引先が期日までに借入金 ￥ 3,000,000 を返済することができず、債権者から利息 ￥ 150,000 を含めた全額の返済を求められたため、小切手を振り出して支払った。なお、当社では他社の債務を保証するさいに対照勘定を用いて備忘記録をしている。

ア. 当座預金 イ. 立替金 ウ. 前払利息 エ. 借入金 オ. 支払利息 カ. 保証債務
キ. 保証債務見返

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第5回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適当と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 所有する電子記録債権のうち ￥ 600,000 を割引き、割引料 (3.5%相当額) が差し引かれた残額を普通預金とした。

ア. 普通預金 イ. 受取手形 ウ. 電子記録債権 エ. 電子記録債務 オ. 支払手数料
カ. 支払利息 キ. 手形売却損 ク. 電子記録債権売却損

2. 決算において、税引前当期純利益 ￥ 2,000,000 を計上したが、受取配当金の益金不算入額 ￥ 200,000 があることが判明した。当期の法人税等の法定実効税率を 40%として、未払法人税等を計上する。なお、中間申告のさいに計上した仮払法人税等の残高は ￥ 300,000 である。

ア. 仮払法人税等 イ. 未収還付法人税等 ウ. 未払法人税等 エ. 受取配当金 オ. 法人税等
カ. 追徴法人税等 キ. 法人税等調整額 ク. 損益

3. 売買目的で保有している夢枕サービス株式会社の株式 1,000 株のうち 600 株を 1 株あたり @￥ 840 で売却し、代金は買主が振り出した約束手形を受け取った。なお、夢枕サービス株式会社の株式は当期中に 3 回に分けて購入したもので、@￥ 800 で購入した 100 株、@￥ 850 で購入した 400 株、@￥ 900 で購入した 500 株で構成されており、移動平均法による記帳を行なっている。

ア. 受取手形 イ. 営業外受取手形 ウ. 売買目的有価証券 エ. 満期保有目的債券
オ. 未収入金 カ. 有価証券利息 キ. 有価証券売却益 ク. 有価証券売却損

4. 機械の減価償却費は概算額 (1 か月あたり ￥ 11,000) をもって、4 月から 2 月までの 11 か月間にわたって毎月見積り計上しているため、決算において年間確定額との差額を調整する。

取得原価：￥ 1,200,000

残存価額：ゼロ

耐用年数：10 年

償却方法：定額法

記帳方法：間接法

決算日：3 月 31 日 (会計期間は 1 年)

ア. 未収入金 イ. 機械 ウ. 機械減価償却累計額 エ. 未払金 オ. 固定資産売却益
カ. 減価償却費 キ. 固定資産売却損

5. 消耗品費の支払いのために作成した小切手 ￥ 33,000 と、掛代金の支払いのために作成した小切手 ￥ 165,000 が、決算日現在、未渡しであることが判明した。

ア. 当座預金 イ. 普通預金 ウ. 売掛金 エ. 未収入金 オ. 買掛金 カ. 未払金
キ. 消耗品費

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第6回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 旅行業を営む沢木トラベル株式会社は、1泊3日のSFC修行弾丸ツアーを企画したところ、顧客20名からの申し込みがあり、ツアー代金の合計 ¥ 2,000,000 を現金で受け取っていた（※適切に処理済み）。

本日、予定どおり弾丸ツアーを催行し、添乗員への報酬や宿泊代、交通費などの諸経費 ¥ 1,600,000 を現金で支払った。

ア. 現金 イ. 前受金 ウ. 仮受金 エ. 未払金 オ. 役務収益 カ. 役務原価 キ. 給料
ク. 旅費交通費

2. ×1年1月30日に購入した備品（取得原価 ¥ 2,000,000、耐用年数：5年、残存価額：ゼロ、償却方法：定額法、記帳方法：直接法）を、×3年6月30日に ¥ 850,000 で売却し、代金は翌月10日に受け取ることにした。なお、当社の決算日は3月末日（会計期間は1年）であり、購入・売却した年度の減価償却費は月割りで計算すること。

ア. 営業外受取手形 イ. 未収入金 ウ. 備品 エ. 備品減価償却累計額 オ. 固定資産売却益
カ. 減価償却費 キ. 固定資産売却損

3. 先日、米国の取引先から5,000ドルを借り入れ、同日の直物為替相場で記帳処理していた。本日、決算において円換算額の評価替えを行った。

借入時の直物為替相場：1ドル ¥ 112

借入時の先物為替相場：1ドル ¥ 114

決算時の直物為替相場：1ドル ¥ 113

決算時の先物為替相場：1ドル ¥ 115

ア. 貸付金 イ. 借入金 ウ. 受取利息 エ. 支払利息 オ. 為替差損益

4. 先日、伊坂商店にかねて注文しておいた商品 ¥ 198,000 を受け取り、代金は掛けとした。本日、この商品を検収したところ ¥ 22,000 の商品が品違いであったため返品した。なお、当社では仕入の計上基準として検収基準を採用している。

ア. 売掛金 イ. 未収入金 ウ. 買掛金 エ. 未払金 オ. 売上 カ. 仕入

5. 株主総会の決議により、その他資本剰余金 ¥ 500,000 および繰越利益剰余金 ¥ 300,000 を減少して各準備金に組み入れた。

ア. 資本金 イ. 資本準備金 ウ. その他資本剰余金 エ. 利益準備金 オ. 繰越利益剰余金
カ. 別途積立金 キ. 修繕積立金

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第7回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 先月と今月の恩田商店からの仕入総額が ￥ 1,200,000 に達し、恩田商店の割戻条件（直近2か月間の売上総額が ￥ 1,000,000 を超える顧客に対し、売上総額の0.5%相当額の支払いを免除する）を満たした旨の連絡を受けたため、本日、同店に対する買掛金を減額した。

ア. 売掛金 イ. 買掛金 ウ. 売上 エ. 仕入割引 オ. 仕入 カ. 損益

2. 得意先奥田商店に対して前期に償還請求をしていた不渡手形の額面 ￥ 500,000 と償還請求費用 ￥ 50,000 のうち、￥ 300,000 を他人振出小切手で回収したが、残額については回収の見込みがないため貸倒れ処理をした。なお、貸倒引当金の残高は ￥ 150,000 である。

ア. 現金 イ. 当座預金 ウ. 受取手形 エ. 不渡手形 オ. 売掛金 カ. 貸倒引当金
キ. 支払手数料 ク. 貸倒損失

3. 当期首（4月1日）において、下記の条件でリース会社と備品のリース契約を締結した。このリース取引はファイナンス・リース取引に該当するため、利子抜き法により処理することにしたが、本日（4月10日）、誤って利子込み法で処理していたことが判明したため、契約時の仕訳の訂正を行うことにした。なお、リース契約した備品はリース資産勘定で処理している。

リース期間：4年

リース料：年額 ￥ 80,000（毎年3月末日払い）

リース資産：見積現金購入価額 ￥ 300,000

ア. 現金 イ. リース資産 ウ. 減価償却累計額 エ. リース債務 オ. 受取利息
カ. 減価償却費 キ. 支払リース料 ク. 支払利息

4. 不要となったソフトウェアを除却した。なお、当期の償却額は月割りで計上すること。

取得日：×1年8月1日

除却日：×5年5月31日

購入代価：￥ 1,440,000

付随費用：￥ 60,000

利用可能期間：5年

償却方法：定額法

決算日：3月31日（会計期間は1年）

ア. 貯蔵品 イ. ソフトウェア ウ. ソフトウェア仮勘定 エ. ソフトウェア償却
オ. 支払手数料 カ. ソフトウェア除却損

5. 繰越利益剰余金のマイナスを補てんするために、その他資本剰余金 ￥ 600,000 を取り崩すことを株主総会で決定した。なお、繰越利益剰余金の借方残高は ￥ 800,000 である。

ア. 資本金 イ. 資本準備金 ウ. その他資本剰余金 エ. 利益準備金 オ. 繰越利益剰余金

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第8回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 売掛金の期末残高 ￥ 500,000 のうち ￥ 100,000 は経営状態が悪化している川上商店に対するものである。売上債権については過去の貸倒実績率 1%にもとづいて貸倒引当金を設定しているが、川上商店に対する売掛金については回収不能額を 50%と見積もって貸倒引当金を設定することにした。なお、貸倒引当金の期末残高は ￥ 12,000 である。

ア. 不渡手形 イ. 売掛金 ウ. 貸倒引当金 エ. 貸倒引当金繰入 オ. 貸倒損失
カ. 貸倒引当金戻入 キ. 償却債権取立益

2. 土地の購入にあたって発生した不動産取得税 ￥ 360,000 の納税通知書が届いたため、現金で納付した。なお、当社では不動産取得税を不動産の付随費用として、取得原価に含めて処理している。

ア. 現金 イ. 仮払法人税等 ウ. 土地 エ. 未払法人税等 オ. 支払手数料 カ. 租税公課
キ. 法定福利費 ク. 法人税等

3. 従業員への賞与の支払いにあたり、賞与総額 ￥ 3,000,000 から、所得税の源泉徴収分 ￥ 550,000 を差し引き、手取額を当座預金口座から従業員の普通預金口座へ振り替えて支給した。なお、前期末に賞与引当金 ￥ 2,500,000 を計上している。

ア. 当座預金 イ. 普通預金 ウ. 立替金 エ. 預り金 オ. 賞与引当金 カ. 賞与
キ. 給料 ク. 法定福利費

4. 当期首(×1年4月1日)において、長期保有目的で林ルンルン株式会社の社債(額面総額: ￥ 1,000,000、償還期間: 5年)を額面 ￥ 100につき ￥ 97 で発行と同時に購入し、代金は小切手を振り出して支払った(※適切に処理済み)。

当期末(×2年3月31日)の決算において、償却原価法(定額法)を適用して帳簿価額の評価替えを行うとともに、決算日の時価が額面 ￥ 100につき ￥ 98 であることが判明したため適切に処理する。

ア. 当座預金 イ. 売買目的有価証券 ウ. 満期保有目的債券 エ. その他有価証券
オ. 有価証券利息 カ. 有価証券評価益 キ. 有価証券評価損 ク. その他有価証券評価差額金

5. ×1年8月3日に、仕入先上橋商店に対する買掛金を小切手を振り出して支払った。なお、この買掛金は×1年8月1日に仕入れた商品 ￥ 200,000 にかかるもので、「仕入日より1週間以内に支払う場合は、代金の3%分の支払いを免除する」という条件が付いていた。

ア. 当座預金 イ. 売掛金 ウ. 買掛金 エ. 未払金 オ. 仕入割引 カ. 仕入 キ. 損益

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第9回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 営業用車両 10 台（1 台あたり ￥ 1,000,000）を購入し、割戻額 ￥ 300,000 を控除した残額を普通預金から支払った。なお、運送費用 ￥ 100,000 は現金で支払った。

ア. 現金 イ. 普通預金 ウ. 車両運搬具 エ. 受取手数料 オ. 固定資産受贈益
カ. 仕入 キ. 支払運賃 ク. 固定資産圧縮損

2. 湊商店に対する売掛金 ￥ 420,000 を湊商店の承諾を得て貴志商店に譲渡し、貴志商店振り出しの小切手 ￥ 400,000 を受け取った。

ア. 現金 イ. 当座預金 ウ. 受取手形 エ. 売掛金 オ. 手形売却損 カ. 債権売却損

3. 先日、得意先朝井商店に商品 ￥ 240,000 を販売し、代金は掛けとした。本日、得意先より商品が到着した旨の連絡を受けた。なお、当社では売上の計上基準として引渡基準を採用している。

ア. 売掛金 イ. 未収入金 ウ. 買掛金 エ. 未払金 オ. 売上 カ. 仕入

4. 当期首において、向こう 4 年分の保険料（1 年あたり ￥ 30,000）を前払いし、全額を保険料勘定に計上していた。決算にあたり、一年基準を適用して保険料を適切な勘定に振り替える。

ア. 立替金 イ. 前払費用 ウ. 未収収益 エ. 長期前払費用 オ. 預り金 カ. 未払費用
キ. 前受収益 ク. 保険料

5. ×1 年 10 月 1 日に、下記の条件でリース会社と備品のリース契約を締結した。このリース取引はファイナンス・リース取引に該当するため、利子抜き法により処理することにした（※適切に処理済み）。

リース期間：4 年

リース料：年額 ￥ 200,000（毎年 9 月末日払い）

リース資産：見積現金購入価額 ￥ 720,000

決算日：3 月 31 日（会計期間は 1 年）

当期末（×2 年 3 月 31 日）の決算において、リース料に含まれている利息のうち、当期の経過期間にかかる分を定額法の月割計算により未払計上するとともに、備品（耐用年数：リース期間、残存価額：ゼロ、償却方法：定額法、記帳方法：間接法）の減価償却費を月割りで計上した。

ア. 備品 イ. リース資産 ウ. リース資産減価償却累計額 エ. リース債務 オ. 未払利息
カ. 支払リース料 キ. 減価償却費 ク. 支払利息

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第10回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 当工場では、購入した原料を外注業者に無償支給し、加工の一部を依頼している。当月、製造指図書#1001のために原料 100,000 円を出庫し、外注業者にメッキ加工を依頼した。なお、通常の出庫票により出庫記録を行った。

ア. 材料 イ. 賃金・給料 ウ. 仕掛品 エ. 製造間接費 オ. 製品 カ. 売上原価
キ. 現金

2. 材料の月末帳簿棚卸高は 100,000 円 (@1,000 円×100kg) であったが、月末に材料の実地棚卸を行ったところ、月末実地在庫量は 95kg であることが判明した。材料の棚卸減耗は正常な数量である。棚卸減耗に関する仕訳を示しなさい。なお、経費に関する諸勘定を用いない方法によること。

ア. 材料 イ. 賃金 ウ. 仕掛品 エ. 製造間接費 オ. 製品 カ. 売上原価 キ. 現金

3. 工場での賃金の消費額を計上した。当月の作業記録によると直接工の直接作業時間は 800 時間であった。当工場で適用する予定総平均賃率は 2,500 円である。また、間接工については、前月賃金未払高が 180,000 円、当月賃金支払高が 600,000 円、当月賃金未払高が 200,000 円であった。なお、当工場では工場会計を独立させており、工場元帳には以下の勘定科目が設定されている。工場において行われる仕訳を示しなさい。

ア. 材料 イ. 賃金・給料 ウ. 仕掛品 エ. 製造間接費 オ. 製品 カ. 売上原価
キ. 本社

4. 直接工の賃率差異を計上した。前月末払高は 280,000 円、当月支払高は 700,000 円、当月未払高は 250,000 円、当月の直接工の直接作業時間は 300 時間、間接作業時間は 100 時間であった。なお、直接工の消費賃金の計算には 1 時間あたり 1,600 円の予定消費賃率を用いている。

ア. 製品 イ. 賃金 ウ. 仕掛品 エ. 製造間接費 オ. 製品 カ. 売上原価
キ. 材料消費価格差異 ク. 賃率差異

5. 当月の製造間接費予定配賦額は 960,000 円、実際発生額は 950,000 円であったため、配賦差異を原価差異勘定に振り替えた。

ア. 材料 イ. 賃金・給料 ウ. 仕掛品 エ. 製造間接費 オ. 製品 カ. 売上原価
キ. 原価差異

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第1回 解答

問	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	オ (有 価 証 券 利 息)	2,000	ウ (投 資 有 価 証 券)	2,000
2	ク (法 人 税 等 調 整 額)	16,000	エ (繰 延 税 金 資 産)	16,000
3	オ (減 価 償 却 費)	60,000	ウ (機 械 装 置)	450,000
	エ (機 械 装 置 減 価 償 却 累 計 額)	270,000		
	キ (固 定 資 産 廃 棄 損)	120,000		
4	イ (当 座 預 金)	5,000,000	ウ (資 本 金)	5,000,000
	キ (株 式 交 付 費)	220,000	ア (現 金)	220,000
5	カ (特 許 権 償 却)	80,000	イ (特 許 権)	80,000

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第2回 解答

問	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	エ (減 価 償 却 費)	108,000	イ (備 品 減 価 償 却 累 計 額)	108,000
2	イ (当 座 預 金)	190,000	オ (電 子 記 録 債 権)	200,000
	キ (電 子 記 録 債 権 売 却 損)	10,000		
3	エ (その他資本剰余金)	880,000	ア (未 払 配 当 金)	800,000
	カ (繰 越 利 益 剰 余 金)	500,000	ウ (資 本 準 備 金)	80,000
			キ (別 途 積 立 金)	500,000
4	オ (関 連 会 社 株 式)	1,300,000	エ (その他有価証券)	200,000
			ア (普 通 預 金)	1,100,000
5	オ (追 徴 法 人 税 等)	550,000	イ (普 通 預 金)	550,000

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第3回 解答

問	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	オ (関 係 会 社 株 式)	2,510,000	ア (当 座 預 金)	2,510,000
2	エ (営 業 外 支 払 手 形)	500,000	エ (営 業 外 支 払 手 形)	505,000
	キ (支 払 利 息)	5,000		
3	ア (別 段 預 金)	5,500,000	オ (新 株 式 申 込 証 拠 金)	5,500,000
4	エ (広 告 宣 伝 費)	88,000	オ (本 店)	88,000
5	オ (減 価 償 却 費)	250,000	イ (建 物)	9,000,000
	ウ (建 物 減 価 償 却 累 計 額)	1,650,000		
	ク (未 決 算)	7,000,000		
	キ (火 災 損 失)	100,000		

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第4回 解答

問	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	オ (仕 入)	24,000	ア (当 座 預 金)	60,000
	カ (発 送 費)	36,000		
2	ア (未 収 入 金)	750,000	エ (その他有価証券)	800,000
	カ (投 資 有 価 証 券 売 却 損)	50,000		
3	ア (普 通 預 金)	300,000	カ (国 庫 補 助 金 受 贈 益)	300,000
4	カ (支 払 リ ー ス 料)	45,000	オ (未 払 リ ー ス 料)	45,000
5	イ (立 替 金)	3,150,000	ア (当 座 預 金)	3,150,000
	カ (保 証 債 務)	3,000,000	キ (保 証 債 務 見 返)	3,000,000

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第5回 解答

問	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	ア (普 通 預 金)	579,000	ウ (電 子 記 録 債 権)	600,000
	ク (電 子 記 録 債 権 売 却 損)	21,000		
2	オ (法 人 税 等)	720,000	ア (仮 払 法 人 税 等)	300,000
			ウ (未 払 法 人 税 等)	420,000
3	イ (営 業 外 受 取 手 形)	504,000	ウ (売 買 目 的 有 価 証 券)	522,000
	ク (有 価 証 券 売 却 損)	18,000		
4	ウ (機 械 減 価 償 却 累 計 額)	1,000	力 (減 価 償 却 費)	1,000
5	ア (当 座 預 金)	198,000	力 (未 払 金)	33,000
			オ (買 掛 金)	165,000

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第6回 解答

問	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	イ (前 受 金)	2,000,000	オ (役 務 収 益)	2,000,000
	力 (役 務 原 価)	1,600,000	ア (現 金)	1,600,000
2	力 (減 価 償 却 費)	100,000	ウ (備 品)	1,100,000
	イ (未 収 入 金)	850,000		
	キ (固 定 資 産 売 却 損)	150,000		
3	オ (為 替 差 損 益)	5,000	イ (借 入 金)	5,000
4	力 (仕 入)	176,000	ウ (買 掛 金)	176,000
5	ウ (その他資本剰余金)	500,000	イ (資 本 準 備 金)	500,000
	オ (繰 越 利 益 剰 余 金)	300,000	エ (利 益 準 備 金)	300,000

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第7回 解答

問	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	イ (買 掛 金)	6,000	オ (仕 入)	6,000
2	ア (現 金)	300,000	エ (不 渡 手 形)	550,000
	力 (貸 倒 引 当 金)	150,000		
	ク (貸 倒 損 失)	100,000		
3	エ (リ ー ス 債 務)	20,000	イ (リ ー ス 資 産)	20,000
4	エ (ソフトウェア償却)	50,000	イ (ソフトウェア)	400,000
	力 (ソフトウェア除却損)	350,000		
5	ウ (その他資本剰余金)	600,000	オ (繰 越 利 益 剰 余 金)	600,000

簿記2級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第8回 解答

問	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	エ (貸 倒 引 当 金 繰 入)	42,000	ウ (貸 倒 引 当 金)	42,000
2	ウ (土 地)	360,000	ア (現 金)	360,000
3	オ (賞 与 引 当 金)	2,500,000	エ (預 り 金)	550,000
	力 (賞 与)	500,000	ア (当 座 預 金)	2,450,000
4	エ (その他有価証券)	10,000	オ (有 価 証 券 利 息)	6,000
			ク (その他有価証券評価差額金)	4,000
5	ウ (買 掛 金)	200,000	ア (当 座 預 金)	194,000
			オ (仕 入 割 引)	6,000

簿記2級 重要仕訳 TOP100・Bランク 第9回 解答

問	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	ウ (車 両 運 搬 具)	9,800,000	イ (普 通 預 金) ア (現 金)	9,700,000 100,000
2	ア (現 金) カ (債 権 売 却 損)	400,000 20,000	エ (売 掛 金)	420,000
3	ア (売 掛 金)	240,000	オ (売 上)	240,000
4	イ (前 払 費 用) エ (長 期 前 払 費 用)	30,000 60,000	ク (保 険 料)	90,000
5	ク (支 払 利 息) キ (減 価 償 却 費)	10,000 90,000	オ (未 払 利 息) ウ (リース資産減価償却累計額)	10,000 90,000

簿記2級 重要仕訳 TOP100・Bランク 第10回 解答

問	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	ウ (仕 掛 品)	100,000	ア (材 料)	100,000
2	エ (製 造 間 接 費)	5,000	ア (材 料)	5,000
3	ウ (仕 掛 品) エ (製 造 間 接 費)	2,000,000 620,000	イ (賃 金 ・ 給 料)	2,620,000
4	ク (賃 率 差 異)	30,000	イ (賃 金)	30,000
5	エ (製 造 間 接 費)	10,000	キ (原 価 差 異)	10,000

※重要仕訳 TOP100 の PDF は、本試験を想定してランダムに組み合わせて出題しています。論点ごとにまとめた WEB 上の解説とは順番が異なりますので、解説をご確認いただく場合は、以下の「PDF 用の解説一覧ページ」をご利用ください。

URL : <https://boki-navi.com/2qr2021/>

QR コード :

